

廃炉・汚染水対策チーム会合 第26回事務局会議 議事概要

日時: 2016年1月28日(木) 10:00~12:00

場所: 東京電力 本社 本館11階1101・02会議室／福島第一免震棟2階会議室
／福島第一新事務棟2階会議室／福島復興本社(復興推進室)

出席者:

井上顧問(電中研)、岡本教授(東大)、

田中対策監、尾澤審議官、湯本室長(資工庁)、
毛利室長(厚労省)、金城室長(規制庁)

森山理事代理(JAEA)、劔田理事長(IRID)、五十嵐理事(賠償・廃炉機構)、
金山理事代理(産総研)、横山常務理(電中研)、飯倉理事(東芝)、魚住 CEO(日立)、
姉川主幹技師(三菱重工)、増田 CDO(東電) 他

議事:

1. プラントの状況について

- ・ 東京電力より、プラント関連パラメータ、滞留水の貯蔵状況について説明があり、現状について関係者で情報を共有した。

2. 個別の計画毎の検討・実施状況

- ・ 東京電力、IRID、JAEA、資工庁より、これまでの一ヶ月の動きと今後一ヶ月の予定について、「中長期ロードマップ進捗状況(概要版)」並びに以下の資料に基づき説明があった。
 - ① タンク建設進捗状況
 - ② サブドレン他水処理施設の状況について
 - ③ 1号機建屋カバー解体工事の進捗状況と
建屋カバー屋根パネル取り外し後のオペレーティングフロア調査結果の報告
 - ④ 1号機原子炉建屋カバー解体 750t クローラークレーン(2号機)
ジブの不具合について(速報)
 - ⑤ 3号機使用済燃料プールからの燃料取出作業における工場訓練について
 - ⑥ 「格納容器内部調査技術の開発」
～1号機ペDESTAL外地下階調査技術の開発～
 - ⑦ 2号機 X-6 ペネ周辺除染実施状況について
 - ⑧ 雑固体廃棄物焼却設備設置工事の進捗状況及びホット試験の実施について
 - ⑨ 汚染水処理二次廃棄物の放射能評価のための
多核種除去設備スラリー試料の分析
 - ⑩ タービン建屋東側における地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況について
 - ⑪ 敷地内の線量低減の進捗状況について
 - ⑫ 線量率モニタの追加設置について
 - ⑬ 連続ダストモニタの警報発生について
 - ⑭ 廃炉・汚染水対策に従事している作業チームに対する感謝状の授与

- ・ 主なやりとりは以下の通り

<タンク建設進捗状況>

C. 水バランスシミュレーションにおいて、陸側遮水壁により流入量が抑制される前提で検討されているが、地下水ドレンからタービン建屋への移送量が今後どのように推移するか等不確定要素がある。現在検討しているもの以外に、保守的に現状の流入量が継続するケースも含め検討頂きたい。(岡本教授)

Q. 陸側遮水壁の凍結開始に関する議論の進捗状況はどうか。凍結開始が遅くなると、貯蔵すべき水の量が増加する。(岡本教授)

A. 2016/1/27 の特定原子力施設監視・評価検討会において、東京電力から規制委員会への説明が不十分な部分につき論点整理を行った。次回、2 月中旬の特定原子力施設監視・評価検討会において、論点について回答する。(東電)

Q. 東京電力として、福島第一の敷地内に最大どの程度までタンクを建設できると考えているか。(井上顧問)

A. どの程度タンクを建設できるかについては、設置場所の前提条件により様々なケースを想定できてしまい、軽々に言うことは出来ない。現状でも、駐車場であった場所にタンクを設置し、作業員に不便を強いている状況である。水バランスシミュレーションを継続的に実施し、タンクが不足することの無いよう、建設を進めていく。(東電)

<サブドレン他水処理施設の状況について>

Q. 地下水ドレンからタービン建屋へ移送するものと集水タンクへ移送するものについて、どのような考え方で分けているのか。今後、タービン建屋への移送量は減少するのか。(岡本教授)

A. 運用目標であるトリチウム濃度 1,500Bq/L を確実に下回るよう、濃度を管理しながら集水タンクへの移送量を徐々に増加し、慎重に運用している。(東電)

C. 各サブドレンピットの濃度について、概ね全ベータ濃度がトリチウム濃度に比べ低いが、No.8,18,19 ピット等については全ベータ濃度がトリチウム濃度に比べ高い。このような傾向や経時変化から、汚染源を推定することができると思われるので検討頂きたい。(井上顧問)

<1号機建屋カバー解体工事の進捗状況と

建屋カバー屋根パネル取り外し後のオペレーティングフロア調査結果の報告>

Q. ダストについて、放射エネルギーの分析だけでなく、どういう放射性物質が含まれているか把握すべく調査して頂きたい。(井上顧問)

A. 2016/1/27 の特定原子力施設監視・評価検討会においても、ダストの問題は地元の最も関心の高い事項であり、ダスト分析の重要性についてご指摘いただいた。今後の分析手法も含め検討し、結果を公表していく。(東電)

C. 場所毎のガレキ量・種類の分布と汚染の高低の相関について評価して頂きたい。(岡本教授)

<1号機原子炉建屋カバー解体 750t クローラークレーン(2号機)

ジブの不具合について(速報)>

- Q. 当該のクレーンはこの状態のまま使用できるのか。修理する場合、工程影響はどの程度か。(資工庁)
- A. 損傷箇所へ何らかの手当てを行った上で使用することとなる。クローラークレーン2号機が必要となるのは、建屋カバーの壁パネル取り外し時である。目下の作業はクローラークレーン1号機にて作業を実施しており、今すぐ工程影響があるものではない。(東電)

<3号機使用済燃料プールからの燃料取出作業における工場訓練について>

- Q. 異常時やメンテナンス時の訓練を実施しているのか。(岡本教授)
- A. 異常時については、各作業において個別の訓練を実施している。メンテナンスについてはどのような機器を対象とするか検討している。(東電)
- C. メンテナンスに関する訓練についても実施して頂きたい。(岡本教授)

<雑固体廃棄物焼却設備設置工事の進捗状況及びホット試験の実施について>

- Q. オフサイトで検討している焼却炉ではバグフィルタにより99.8%の除去が可能という説明がなされている。雑固体廃棄物焼却設備のバグフィルタの除染係数は実績として10なのか。(井上顧問)
- A. 実施計画上、保守的に除染係数を10として設定している。実測としては1,000程度の除染係数である。(東電)

<汚染水処理二次廃棄物の放射能評価のための
多核種除去設備スラリー試料の分析>

- Q. スラリー中に多量の水酸化物が確認されているが、水酸化物の放射線分解による水素発生は検討しているのか。(井上顧問)
- A. スラリーは水分が9割であり、水酸化物よりも水の放射線分解による水素発生が支配的と考えている。水酸化物の安定性についてはpHを測定することで確認できる。(JAEA)
- C. 水の放射線分解が支配的であることから、スラリー上澄み水の水抜きという第一段の対策と、脱水という第二段の対策を実施する。(東電)

<連続ダストモニタの警報発生について>

- C. 今回、ダストを舞い上げた道路は東電敷地内であり東電で対応するとのことだが、敷地外の道路の舗装についても、地元自治体又は国にて対応を検討頂きたい。(岡本教授)

3. その他

- ・ 次回は、2016年2月25日(木)に開催する方向、確定次第別途連絡する。(湯本室長)

以上